

[シンポジウム：家族看護学，その専門性とは]

4. アセスメントから介入へ：家族の変化を恐れないこと

元山口県立大学看護学部

森 山 美知子

1. 家族アセスメントから家族介入へ

- (1) 家族へのアプローチの機会は豊富
- (2) 患者の行動変容への家族の重要性
- (3) 家族看護学形成のための2つの過程：
演繹的方法 vs 帰納的方法

2. 看護婦は変化の媒体

- (1) 看護過程は相互作用の
相互作用から生み出される介入結果
介入方法のパターン化・構造化
- (2) 変化理論
変化の3局面：「安定 vs 変化」「均衡 vs 不均衡」
家族の動揺を変化の1局面として捉らえる：
受容する勇氣
- (3) 変化の媒体としての専門家：家族と看護婦の
構造的融合

3. CNS の役割

- (1) CNS の4つの機能
- (2) 相談役として：看護婦の力を引き出し，その後ろ盾となること
- (3) 臨床での相互支援関係

4. 家族看護実践を成功させる重要点

- (1) 組織の理解を得ること
- (2) 家族に必要な社会資源を十分に提供すること

5. 看護の対象の拡大とナーシング・ケースマネジメント

- (1) 個人から地域へ
- (2) ヘルスケアシステムの中での重要性：政策的介入の1つとして